

伝統の豊橋筆作り学ぼう

職人ら3人
「先生」に

田原泉小児童ら真剣

田原市泉小学校で17日、4年生31人が豊橋筆を作る伝統工芸士から筆作りを学んだ。

同校卒業生で伝統工芸士の川合福男さん(64)ら3人の筆職人が先生となり、先端が鋭い毛に統一する選別や、穂先を形作る仕上げ作業など3工程を見学。このうち仕上げ作業を体験した。海草が原料ののり

を筆にたっぷり染みこませ、穂先に巻き付けた糸を手と口で支え、筆をくるくる回しながら余分なのりを絞り出す。児童らは、真剣なまなざしで筆作りに挑戦した。

高級筆として知られる豊橋筆は約210年前、下級武士の副業として吉田藩(豊橋)で栄えたのが始まりとされる。1976(昭和51)年に

伝統工芸品に指定された。

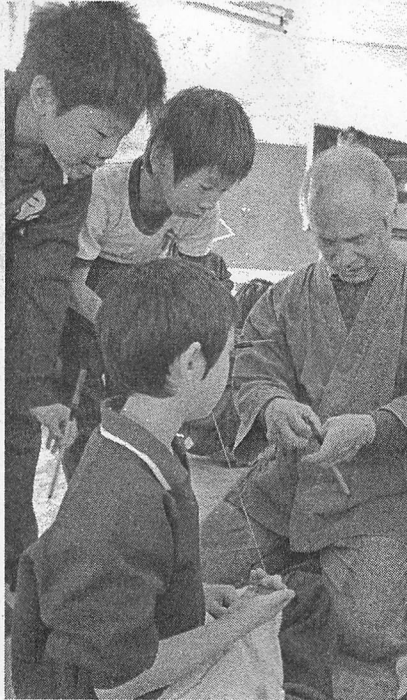
後継者不足 大きな問題

興味持ってほしい

最盛期は約200人ほどの職人がいたが、今はおよそ半数に減り、その中心は60代。後継者不足を抱える。「自分たちが退いた後、作り手がいなくなれば歴史が

途絶えてしまう」と川合さん。「1人でも多く豊橋筆に興味を持ってもらい、将来伝統工芸士を目指してくれたらうれしい」と話した。

(千葉敬也)



川合さんの技に見入る児童ら＝泉小学校で